

地域意見交換会 参加

6月17日(金)、千葉県東総文化会館(旭市)の小ホールで行われた「平成28年度 第1回障害のある方の雇用と就業に関しての地域意見交換会」(主催：社会福祉法人ロザリオの聖母会、共催：銚子公共職業安定所・佐原公共職業安定所)に、職員3人と就労移行のメンバー3人が参加しました。会場には香取海匠地域から関係者などが多数来場して、熱心に話しを聴いていました。

■第1部 基調講演

元大東コーポレートサービス株式会社 代表取締役の山崎 亨さん(写真)が、『障害者雇用を取組む上で大切なこと～障害者への必要な配慮と、企業として求められること～』というテーマで講演されました。

山崎さんは、ご自身が障害者を雇用する特例子会社の社長として様々な改善や改革を行ってきた経験から「雇用はどんな会社でも出来るし、障害者にはいかなる仕事もさせてあげることができる」と指摘した上、会社はまず、障害者を受け入れるにあたって、社内の仕事を棚卸(どんな仕事があるのか把握する)し、障害者が出来る仕事を確保することから始め、仕事が楽しく出来るように、ジョブコーチや作業の工夫や改善を行うことがポイントであると述べました。そして、障害者への必要な配慮として①その人を理解する。②どうしたらうまくやれるか考える。③本人からSOSが出せる環境を常に作っておく。④指導は粘り強く、あきらめないこと。などと述べ、企業の役目として、①どのように障害者から就業における障害(阻害要因)を取り除くか。②どのように仕事の質を上げるか。③どのように企業と障害者がウインウインの関係(双方が満足すること)を実現させるか。が重要であると話されました。

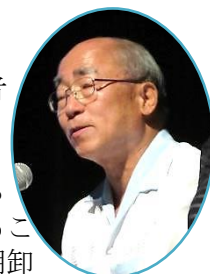
また、障害者が社会人として働くための準備として、①きまりやルールを守る。②健康管理。③あいさつと返事。④身だしなみと姿勢。⑤自分でSOSが出せる。と言ったことが出来るようになること大切で、それが人の集まる中で生きていくため、上手に社会の仲間に入っていくために重要なことだと述べました。

山崎さんが最後に「私の考えは、一人でも多くの障害者が“納税者”になることだ」と話されました。まさにその通りだと思いましたが、“言うは易く行うは難かたし”と感じた講演でした。

■第2部 シンポジウム

『障害者雇用を先駆的に取り組む企業からの情報発信』というテーマで、ヤマサ醤油株式会社の社員1人と障害者1人、有限会社さんきゅうの社員2人、障がい者の就労促進事業所みんなの家の職員1人がシンポジスト、基調講演を行った山崎さんがアドバイザー、東総就業センターの遠藤さんがコーディネーター(進行調整役)してステージ上に並び、2社がこれまでの取り組みを報告しました。このうち、さんきゅうは、4月にしおさいからトライアル雇用で入ったT・Sさん(24)の事例を報告しました。さんきゅうは、銚子市上野町で老人の居宅介護支援、訪問看護、デイサービス、ショートステイ、グループホームを運営する会社です。

T・Sさん現在、午前9時から午後1時15分まで、GH内の清掃や入居者の方々へのお茶出し、昼食の準備や後片付けの仕事を担当していますが、採用からこれまでにについて「入院生活で見た看護師の仕事に感銘を受け、介護の仕事で人の役に立ちたいという思いを抱いたようです。行く行くは介護の仕事がしたいという強い思いがあったので採用となりました。配属先がグループホーム(GH)に決まったのですが、その理由は、毎日利用者様が変わる部署よりも、入れ替わりが少ないGHの方が、本人が迷わず、働き易いだろうと判断したからです。GHでは、彼の情報を部署内で共有し、以前の実習で分かったことや自分の強みや弱みを教えてもらって、社員に理解してもらいました。GHではレクリエーション活動などいろいろやっているのですが、(彼は)カラオケが好きなようで、おじいちゃん、おばあちゃんの間では人気者になっていて、いつも“お兄ちゃん”“お兄ちゃん”と呼ばれられています。コミュニケーションが苦手とのことでしたが、何とか努力して仕事しています。」とT・Sさんについてさんきゅう側の見解と感想が述べられました。(2面へ続く)



この後、コーディネーターからステージ下の客席にいるT・Sさんが紹介され、「私は高校生の時に統合失調症になり、半年間入院しました。病気の治療と働くための訓練を経て、この4月から介護のさんきゅうの一員として働いています。将来的には1年でも長く働けるようになっていけばいいと思っています。障害のある方も決して消極的にならずに積極的になって欲しいと思います。私は仕事を始めて今とても充実しています。」と今の感想を発表し、会場から大きな拍手が送られました。



黒潮会総会 開催

6月18日(土)、しおさい春日を会場にして精神障害者家族会「黒潮会」の定期総会が開催されました。

第1部の定期総会は、会長挨拶などに続いて、

- 第1号議案 2015年度事業報告承認の件
- 第2号議案 2015年度決算報告承認及び監査報告の件
- 第3号議案 2016年度事業計画承認の件
- 第4号議案 2016年度予算承認の件

について会長及び会計担当常任委員が説明し、審議した結果、4議案全て拍手多数で承認されました。

また、第5号議案 役員改選についても、常任委員への1名就任と新規に顧問1名の就任が、拍手多数で承認されました。

--***-***-***-***-***-***-***-***

第2部の茶話会では、障害を持つ家族と生活を共にしている中で日頃考えていることや感じていること、そして、いわゆる“親亡き後”のことなどを語り合いました。また、しおさいのような作業が中心の施設への通所が難しいと思われる場合は、日中の居場所として過ごすことが出来る施設への通所を考えてみてはどうかといった具体的な意見も出るなど、短い時間ではありましたが、その切実さを共有することが出来たとともに有意義な会となりました。



▲総会に参加した皆さん



▲茶話会の様子



さつまいもの苗・つるなしいんげんの種 植え付け



6月14日(火)、就労移行の職員とメンバーが、しおさいの第3畑(松本町)に紅あずま(さつまいも)の苗を200本植え付けました。またその数日前にも、紅はるか(さつまいも)の苗を200本植え付けてあり、秋の収穫が楽しみです。

一方、6月9日(木)、つるなしいんげんの種80個をビニールポットに植え、1週間後の15日に第1畑(上野町)へ移植しました。50日ほどで収穫期を迎えるそうなので、こちらも成長を見守りたいと思います。



▲さつまいも苗の植え付け



▲つるなしいんげんの種植え



▲葉が出たつるなしいんげん

～編集後記～

ネーミングライツで、駅名に愛称が付いて銚子電鉄。市内だけで無く市外の企業が名乗りを上げ銚子電鉄を支援しています。中でも面白いのが笠上黒生で、ヘアケア商品を製造・販売する会社が名付けた「髪毛黒生(かみのけろはえ)」。観光客はそれを見て思わず笑ってしまうとか。また最近外川駅がいろいろと変化しています。トイレが新築された他、駅名も早稲田ハウス(千葉県松戸市)が名付けた「ありがとう外川駅」となり、駅舎内には同社が設置した“ありがとう”や“感謝”をテーマにした絵本が30冊置いてあります。そして6月下旬に同社が「笑顔の塔」(写真)を設置しました。表側(オレンジ色の顔)は太陽、裏側(黄色い顔)は月を表しているそうで、太陽が上がっている間も、月が上がっている間もずっと笑顔が広がりますよという思いが込められているとのこと。でもどうしてホーム側では無く道路の方が表面になるように建てたのか不思議です。気になった方は見に行ってくださいね。

